

“G”round 20
to The Next Stage

ジーラウンド・トゥエンティ

2018年3月期 決算説明会

2018年5月22日

ユニチカ株式会社

1. 2018年3月期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産

2. 各事業セグメントの状況

- ・セグメント別 業績の概要
- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況

補足資料

- ・中期経営計画施策の進捗(成長戦略)
- ・国内シェア優位事業
- ・事業構成

1. 2018年3月期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産

2. 各事業セグメントの状況

- ・セグメント別 業績の概要
- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況

補足資料

- ・中期経営計画施策の進捗(成長戦略)
- ・国内シェア優位事業
- ・事業構成

業績の概要

各事業とも概ね堅調に推移し、増収。

高付加価値品の販売は増加したが、原燃料価格の上昇などにより、減益。

有利子負債の削減による支払利息の減少などにより、営業外損益はプラスに影響。

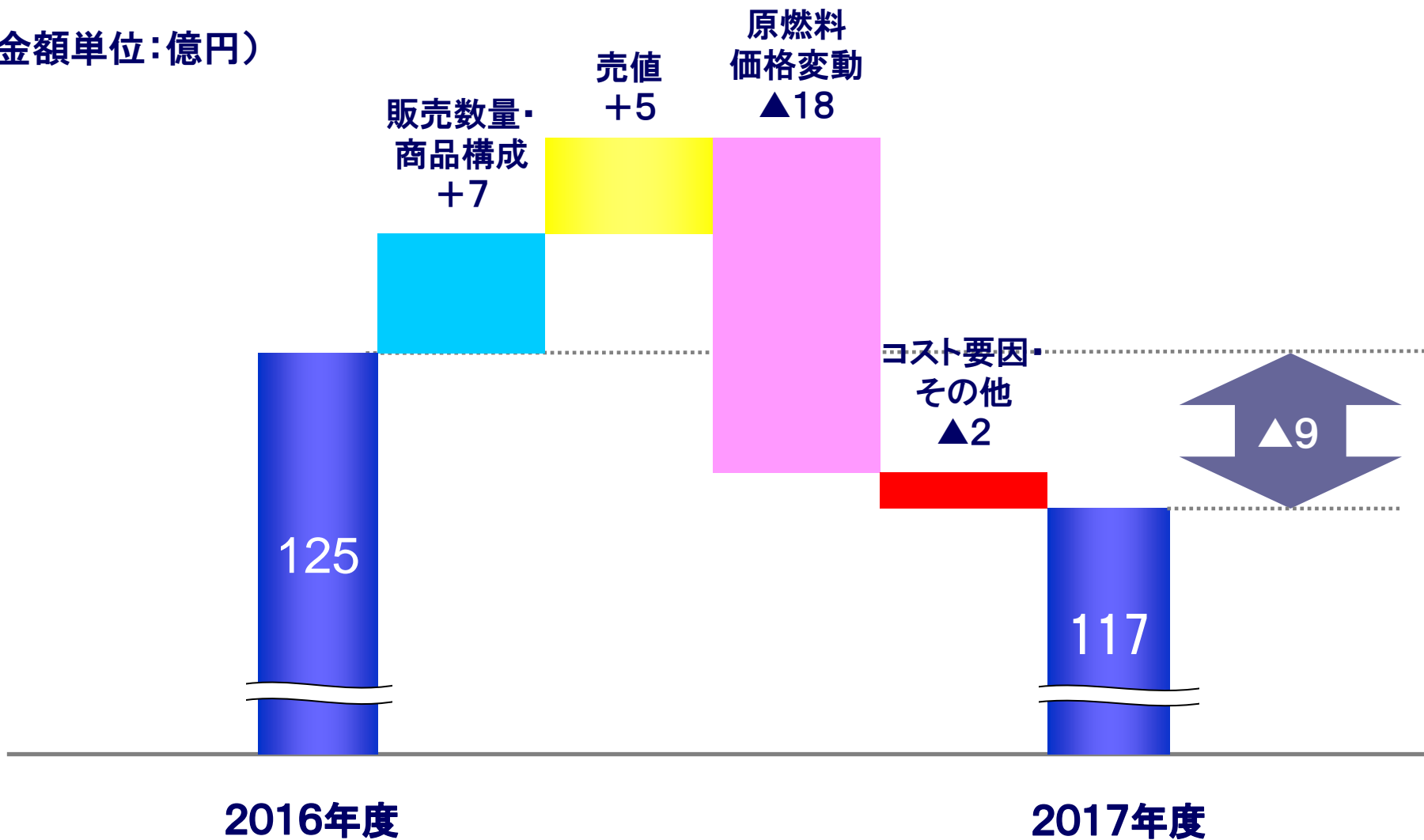
特別損失が大きく減少し、当期純利益は前期比で増益。

連結合計 (金額単位:億円)	2016年度 実績	2017年度 実績	前期比増減	
			金額	率
売上高	1,262	1,284	+22	+2%
営業利益	125	117	▲9	▲7%
営業利益率	9.9%	9.1%	(▲0.9%)	—
営業外収益	10	6	▲3	—
営業外費用	30	23	▲7	—
経常利益	105	100	▲5	▲5%
特別利益	10	8	▲2	—
特別損失	34	17	▲18	—
税金等調整前当期純利益	81	91	+11	+13%
親会社株主に帰属する 当期純利益	74	81	+7	+9%

減価償却費	43	44	+2	+4%
設備投資	48	41	▲7	▲14%

営業利益変動要因分析

(金額単位: 億円)



資産・負債・純資産

(金額単位:億円)	2017年3月末	2018年3月末	増減
資産合計	2,119	2,033	▲85
流動資産	1,016	950	▲66
固定資産	1,103	1,083	▲20
負債合計	1,666	1,626	▲40
純資産合計	453	407	▲45
株主資本	406	357	▲49
その他の包括利益累計額	13	15	+2
非支配株主持分	34	36	+1
有利子負債	1,093	1,053	▲41
自己資本比率	19.7%	18.3%	▲1.5%

1. 2018年3月期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産

2. 各事業セグメントの状況

- ・セグメント別 業績の概要
- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況

補足資料

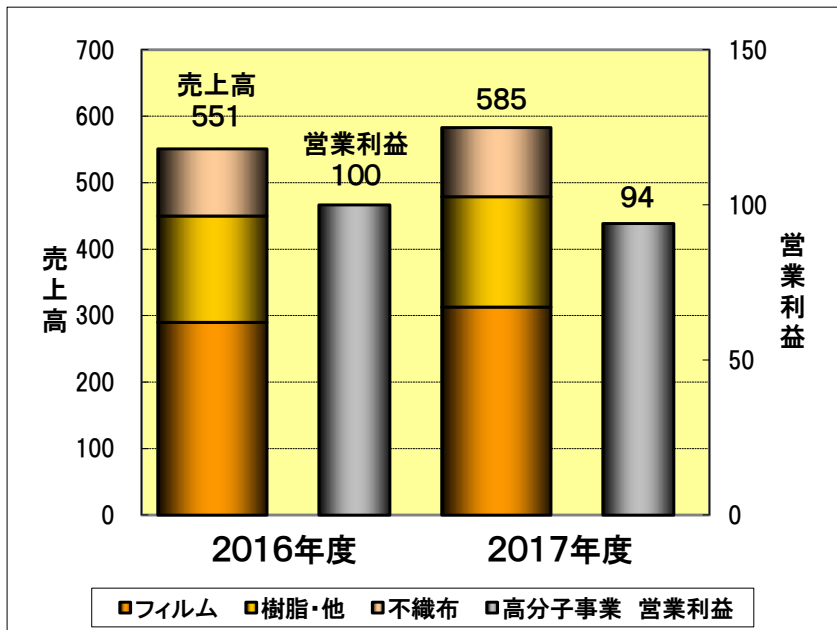
- ・中期経営計画施策の進捗(成長戦略)
- ・国内シェア優位事業
- ・事業構成

セグメント別 業績の概要

セグメント別 (金額単位:億円)	2016年度 実績	2017年度 実績	前期比	
			金額	率
売上高	1,262	1,284	+22	+2%
高分子事業	551	585	+35	+6%
機能材事業	121	125	+4	+4%
繊維事業	555	536	▲19	▲3%
その他	35	37	+2	+5%
営業利益	125	117	▲9	▲7%
高分子事業	100	94	▲6	▲6%
機能材事業	11	12	+1	+9%
繊維事業	19	13	▲6	▲33%
その他	▲6	▲3	+3	—

販売は好調も、原燃料価格等の上昇により減益

(金額単位:億円)	2016年度	2017年度	増減
高分子事業 売上高	551	585	+35
フィルム	290	313	+24
樹脂・他	160	168	+8
不織布	101	104	+3
高分子事業 営業利益	100	94	▲6



□フィルム [増収・減益]

◆ 包装分野

包装分野は、季節商品など国内販売が好調。バリアナイロンフィルム「エンブレムHG」など高付加価値品の販売も拡大。海外も好調なアジア市況を背景にインドネシア子会社が売上を拡大。

◆ 工業分野

情報端末機器用途など電気・電子機器分野で需要が好調に推移。シリコーンフリー離型PETフィルム「ユニピール」など、高付加価値品の販売も堅調に推移。

□樹脂 [増収・減益]

◆ ポリアリレート樹脂「Uポリマー」

情報端末機器用途や海外向け自動車用途で好調に推移

◆ ナイロン樹脂

自動車用途などで堅調に推移。

◆ 飽和共重合ポリエステル樹脂「エリーテル」、
環境配慮型水性エマルジョン「アローベース」
太陽電池用途の需要減などにより、低調に推移。

□不織布 [増収・減益]

◆ ポリエステルспанボンド

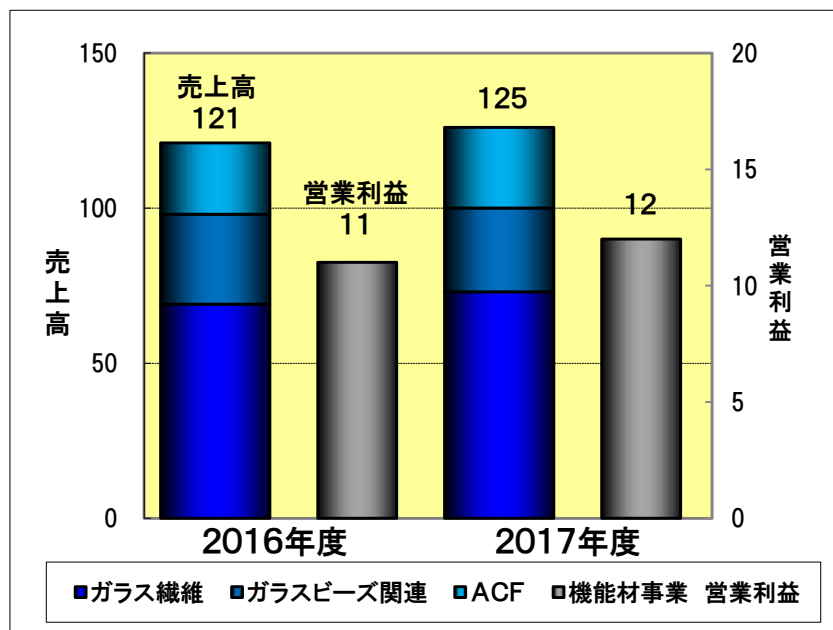
農業用途や建築資材用途で販売数量を伸ばしたが、土木用途などで低調に推移。タイ子会社では新機台製品のスペックインを推進。

◆ コットンспанレース

スキンケア用品などの生活資材用途で堅調に推移し、輸出も増加。

ガラス繊維は電子材料分野での需要回復により増収増益

(金額単位:億円)	2016年度	2017年度	増減
機能材事業 売上高	121	125	+4
ガラス繊維	69	73	+4
ガラスビーズ関連	29	27	▲2
ACF	23	26	+3
機能材事業 営業利益	11	12	+1



□機能材 〔増収・増益〕

◆ ガラス繊維・産業資材分野
建築土木用途での需要が伸び悩み。環境関連用途は堅調に推移。

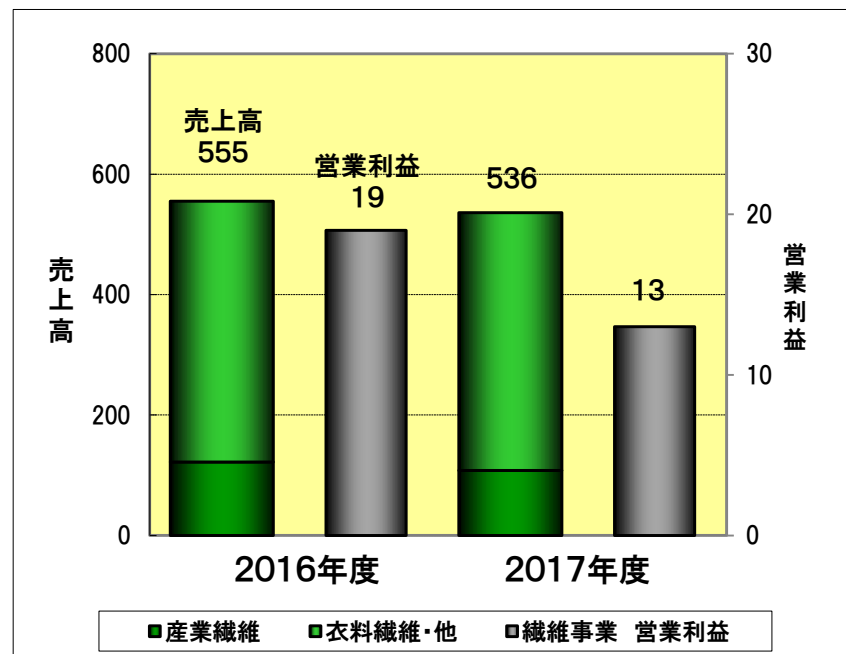
◆ ガラス繊維・電子材料分野
ICクロスは、超薄物タイプを中心に、情報端末機器・ネットワーク関連用途での好調な需要に支えられ、販売が堅調に推移。

◆ ガラスビーズ
電子部品や自動車部品などの工業用途が好調に推移し、路面標示用途も堅調に推移したが、原燃料価格上昇などの影響を受けた。

◆ 活性炭繊維(ACF)
主力の浄水器用途は水栓一体型を中心に好調に推移し、VOC除去用途、工業用途なども好調に推移。

産業繊維は構造改革の影響で減収、原燃料価格上昇の影響も受け減益

(金額単位:億円)	2016年度	2017年度	増減
繊維事業 売上高	555	536	▲19
産業繊維	122	108	▲14
衣料繊維・他	433	428	▲5
繊維事業 営業利益	19	13	▲6



□ 繊維 〔減収・減益〕

◆ 産業繊維

ポリエステル短繊維は、複合繊維などの高付加価値品の販売を進め、前期並みの売上を確保。

ポリエステル高強力糸は、土木用途などで低調に推移したが、高付加価値品の販売数量は増加し、計画通りの収益を確保。

全体では、原燃料価格上昇の影響も受けた。

◆ 衣料繊維

ユニフォーム分野は、ワーキング用途を中心に好調に推移。

寝装分野も需要の回復により堅調に推移。

レディス分野や原糸販売などは不振が続き、売上が減少。

海外向けでは、デニムの需要が回復し、好調に推移。

1. 2018年3月期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産

2. 各事業セグメントの状況

- ・セグメント別 業績の概要
- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況

補足資料

- ・中期経営計画施策の進捗(成長戦略)
- ・国内シェア優位事業
- ・事業構成

成長戦略（高分子セグメント）

	施策		進捗状況(前期比)	評価
フィルム	エンブレムアジア製品のグローバル市場拡大		堅調なアジア市況と生産性の向上にともない、売上高は1.2倍に拡大。	○
	バリアナイロンフィルム「エンブレムHG」の展開		惣菜やレトルトコーン向けなどに採用が拡大しており、売上高は1.8倍に拡大。	○
	耐熱ポリアミドフィルム「ユニアミド」の拡大		一部用途で需要が縮小し、売上高はやや減少。	△
	工業用PETフィルムの拡販		シリコーンフリー離型PETフィルム「ユニピール」を国内外に拡販中。売上高は1.9倍に拡大。	○

成長戦略（高分子セグメント）

	施策		進捗状況(前期比)	評価
樹脂	「アローベース」の拡大		国内メーカー向け太陽電池用途の需要が減少。	△
	「Uポリマー」の拡販		従来の情報端末機器用途に加え、海外向け自動車部品用途で販売が拡大し、売上高は1.6倍※に拡大。	○
	高機能性PETの拡販		化粧品ボトル用途などの差別化アイテムの販売が増加し、売上高は1.5倍に拡大。	○

※：既存用途を含む

成長戦略（機能材、繊維セグメント）

	施策		進捗状況	評価
活性炭 繊維 (ACF)	空気浄化用フィルターの拡販による海外市場の開拓		中国を中心に自動車室内VOC除去フィルターの販売が堅調に推移。	○
ガラス 繊維	産業資材・電材用途(特殊クロス等)の拡販		電子材料分野のICクロスで超薄物タイプの販売が増加。	○
ガラス ビーズ	需要拡大が見込まれる高精度ガラスビーズの生産強化・拡販		新規にユーザーを獲得し、販売が拡大。	○
産業 繊維	新規商品の投入によるポリエステル繊維の拡販		ユーザー評価中。	△

※シェアは当社推定

	製品	国内 シェア	主な用途	当社の強み
高分子	ナイロンフィルム	40% (1位)	食品包装用 (世界シェア 約15%)	同時二軸延伸技術 商品のバリエーション
	ポリエステルспанボンド	35% (1位)	自動車内装、建築、土木資材 農業資材、衛生材料、生活資材	複合繊維化技術
	コットンспанレース	60% (1位)	衛生材料、生活資材、医療資材	天然素材のシート化技術
	ポリアリレート樹脂	当社 独自	自動車部品、電気・精密機器部材	耐熱性・透明性
機能材	ガラスクロス(産業用)	20% (2位)	フィルター素材、FRP用、建築 土木資材	原織・製織技術
	ガラスビーズ	40% (1位)	各種反射材、工業用ビーズ	商品のバリエーション

その他(売上高構成比 3%)

高分子事業(売上高構成比 46%)

- ◆フィルム ナイロンフィルム
ポリエステルフィルム
- ◆樹脂 ナイロン樹脂
ポリエステル樹脂
ポリアリレート樹脂
- ◆不織布 ポリエステルスパンボンド
スパンレース



繊維事業(売上高構成比 42%)

- ◆産業繊維 ポリエステル高強力糸
ポリエステル短繊維 等
- ◆衣料繊維 ユニフォーム
一般・婦人衣料素材
スポーツ衣料素材 等

機能材事業(売上高構成比 10%)

- ◆ガラス繊維
- ◆ガラスビーズ
- ◆活性炭繊維

ご注意

本資料中の予想は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいております。実際の業績は、今後の種々の要因によって異なる結果となる可能性があります。